

<日時>
平成29年12月22日（金） 13:00～15:00

<場所>
大阪府庁本館5階 議会特別会議室（大）

<検討事項にかかる主な意見>

テーマ	主な意見
◆ギャンブル等 依存症対策 の取組み	- ギャンブル等依存症対策にかかる人材の育成・確保については、国も動き出しており、大阪府市においても、長期的な視点に立って取組みを前向きに検討すべき。 - ギャンブル等依存症対策にはお金と人が必要となるが、官がやる場合は予算等の制約で物事を進めるスピードが遅くなることもあるため、専門家の知見を集めた検討や、民の力を借りることが必要である。 - ギャンブル等依存症対策の効果を測ることができるようにするため、大阪独自のものも含めて、統計データの整備をすべき。 - 世論調査などを見ても、IRに対するギャンブル等依存症への不安が根強い中、どういう訴え方をすればその不安を拭うことができるのかということについても考えていく必要がある。 - ギャンブル等依存症対策にかかる若い世代（高校生）からの教育について、高校の現場では時間的余裕がないので、すでに教育に組み込まれている薬物依存症などと一緒にうまく組み合わせてやっていくべき。 - ギャンブル等依存症対策で世界最高水準の大阪モデルを掲げているが、国のギャンブル等依存症対策基本法案の動きなどとスピード感をあわせて、大阪でも依存症対策の具体像を打ち出していくべき。 - 例えば夢洲の中に健康的に体を動かしたり、趣味で使えるような場所をつくるなど、ギャンブルをしない時間や場所をつくることが大事で、IR内、夢洲内、大阪府下などエリアに応じてフォーカスを当てるところを区別しながら、制度構築の時点で対策を検討していくべき。
◆IR誘致 に向けた 理解促進 の取組み	- 新聞の世論調査などを見ると、大阪府市が理解促進の取組みで努力しているにも関わらず、理解にかかる数字があまり動いていないので、現状よりもう少しいろいろな工夫が必要である。 - IRで何をするかを説明していく時に、MICEについて、世界トップレベルの会議や展示が来ることで新たな情報が入ってくるなど、もう少し強く打ち出していくべき。 - 大阪以外の周辺地域への理解促進をどうやっていくかも今後の大きな課題である。 - IRは非常に多面的な要素を持っており、理解促進を図る相手の関心度合いをセグメント化しながら、訴えかける内容をカスタマイズしていくことが必要である。 - 女性を対象にアプローチするのであれば、女性の参加が多い他のセミナーと抱き合わせでIRの紹介をするなど、情報提供の仕方を考えていくべき。
◆これからの まちづくり	- 夢洲まちづくり構想をブラッシュアップしたマスタープランを示していくことが必要で、夢洲にどういう時間軸でどういう機能やインフラを整備するかや、そのコストをどのように負担するのかなどを検討すべき。 - まちづくりをはじめ、IRに関わる大事なファクターについては、IR推進会議以外に、個別で検討を深める場が必要である。 - 夢洲の島としての特性を活かして、規制緩和などでいろいろな実証ができる場とし、そのデータを情報発信していくまちにすることで、新しい産業をおこしていくべき。 - 外国人観光客が増えると、メリットだけでなく、環境問題や交通渋滞などのデメリットも出てくるので、定住者と観光客が矛盾せず共存できるようにするためにも、スマートなまちづくりの検討は必要である。